

魅力度ランキング

過日、某調査会社による、“全国47都道府県の魅力度ランキング2021”なるものが公表され、マスコミが挙って取り上げるおかげでチョットした話題になっています。例年のことですが、茨城県は、最下位争いをしていて、昨年は最下位を脱出したものの、今年はまだ逆戻りしました。

これに対して、大井川知事は冷静で、歯牙にもかけない、という毅然とした態度でしたが、その姿勢は評価すべきと思いました。

そもそも、地域の魅力度ってなんだ？何を尺度にするの？などなど不明確なところが多く、批判も聞かれます。単純に考えれば、“行ってみたいかどうか？”、“住んでみたいかどうか？”によって決まるような気がしますが、明確に言い表せないような雰囲気もあって、定量化はむづかしいように思います。

人間についても同様で、外面的と内面的な評価の尺度があるのですが、“魅力的な人ってどういう人？”と問われると、好きか嫌いかと同じように、一言で表現するのはむづかしくないでしょうか？

仮に、“地域の魅力度を上げたい”と思われる方がいるとして、個人的な体験から一つだけお伝えしたいことがあります。

筆者は、幸か不幸か長い人生の中で幾度か住まいを変えてきました。茨城で生まれ、福岡で育ち、また、茨城へ戻ってまいりました。その間、アメリカ（イリノイ大学アバナー・シャンペーン校）とノルウエー（ノルウエー土質工学研究所(NGI)）に年単位で過ごしました。また、短期間ですが、JICA派遣による専門家として、メキシコにも住みました。つまり、国内では、西日本と東日本での生活を、海外では、アメリカとヨーロッパでの生活を経験したことになります。言葉も日本語以外に、英語、ノルウエー語とスペイン語に接することができました。職業は大学教員しか経験がありませんが、西と東の大学も、そして、私立大学も国立大学でも教員としてほぼ同じ年月を費やしてきました。そういう拙い経験の中から考えますと、「どこに行きたいか？」と問われると、行きたいところはまだまだたくさんありますが、「どこに住みたいか？」と問われると、きっと、「特になく、どこでも楽しく生きていけます」と答えると思います。

このような経験から言えることは、もし、自分の住んでいる地域のランキングを上げたいと思うなら、いったん住んでいるところを離れて、離れている地域から住んでいる地域を眺めてみる、ということをご提案したいと思うのです。そこから地域の魅力度を上げる知恵が生まれてくるものと思っています。

筆者は、北九州に置いていた父母の墓を、定年後日立に移しました。育った北九州と福岡には強い想いはありますが、根拠の希薄な事項に基づいた意味のないランキングとは無関係に、この地を愛していますので、この地で骨をうずめようと決めました。

“来し方に 悔いはなしとは ごちたれど
廻るは遠い 折々のこと”

代表理事 安原一哉（令和3年11月1日）